

1 現状

- 中学校特別支援学級卒業者の約 8 割が高等学校へ進学しており、支援が必要な生徒の情報は「ブレ支援シート」等を活用し、支援情報の引継ぎと支援が広がり始めている。
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、校内体制を整え支援していくことが求められている。
- 地域の支援者との連携・協働を深めることにより、特別支援教育に係る実践力の向上が求められている。

2 具体的な取組・成果と課題

(1) 公立高等学校特別支援教育地区別協議会

① 目的

- ・ 高等学校において支援が必要な生徒が増加する中、校内支援体制の充実と地域連携による実践力の一層の向上を図るため、10 圏域ごとに「地区別協議会」を複数回開催し、地域の専門家が加わり、情報共有や事例検討を行う。

② 実施状況

- ・ 10 圏域で各 2～3 回ずつの実施⇒(延べ 333 名参加)
- ・ 助言者：「特別支援学校教員、サポマネ、児童相談所、SSW、サポステ、障支センター等」

③ 各校から出された課題事例の一部

- ・ SNS や性的関心から生ずるトラブルへの対応方法
- ・ 福祉就労など就労支援の進め方と外部機関との連携
- ・ 特別支援教育に学校全体で取組むための体制づくり
- ・ 高等学校での合理的配慮の提供状況の確認

④ 成果と課題

- 発達障がいサポート・マネージャーや特別支援学校教育相談担当等の助言が参考になっている。
- 特コの経験が浅い担当者にとって事例検討は参考となり、他校と連絡を取る機会になっている。
- ▲ 圏域によって経験メンバーや扱う内容等に差が生じており、運営方法の工夫が必要。

(2) 高等学校巡回支援担当教員の活動

① 目的

- ・ 高等学校の特別支援教育における理解と支援力向上のため、特別支援学校高校巡回職員（4 地区に 1 名ずつ）による高等学校への助言・支援を実施する。

② 活動内容（担当者 4 名の巡回支援総数 692 回/年）

- ・ 通級指導教室担当教員への助言や支援 ・ 校内支援体制構築への助言 ・ 校内職員研修への援助
- ・ 通級による指導対象生徒のアセスメント等への協力 ・ 個別の指導計画の作成に関する助言
- ・ 生徒・保護者との教育相談への参加 ・ 自立活動の時間における直接指導への参加
- ・ 授業参観 ・ 支援会議への参加

③ 成果と課題

- 高校巡回支援担当教員が、定期的に巡回することにより校内で気軽に相談できる状況となった。
- 特性をもつ生徒の就職支援(ハローワーク・ナカポツとの連携)に繋がった。
- 入学後に高校巡回支援担当教員と連携し、高校側から直接中学校に問い合わせる支援情報の共

有がしやすくなった。

▲ 学校内の担当者により考え方が変わることもあり、チーム支援を根付かせる土台作りが必要。

(3) 「支援・連携マップ」等の作成・活用

① 目的

- ・ 高等学校に通う生徒本人を中心とした支援ネットワークが在学中から構築され、卒業後も必要に応じて相談や支援を受けることができるよう、地域における相談支援機関等をリスト化して関係者で共有するとともに、「支援・連携マップ」の効果的活用を推進する。

② 活用方法

- ・ 「支援・連携マップ」作成後は、校内の全教員で共有するとともに、関係者（例：地区別協議会や福祉・医療関係者等）と必要に応じて共有し、効果的な活用をする。

③ 成果と課題

○ 近隣校同士で「支援・連携マップ」を共有することができるため、各校の連携にも繋がった。

▲ 作成した「支援・連携マップ」を校内の職員でどのように共有及び活用するかの工夫が必要。

▲ 地域にある相談支援機関等が、互いに顔の見える関係を構築し、必要に応じて迅速な連携が図れる体制構築が更に必要である。



(4) 特別な支援を必要とする生徒の中学校からの支援情報の確実な引継ぎ

① 実施内容

- ・ 小中学校の特コ連絡会への参加による小中学校の特別支援コーディネーターとの連携
 - ※ 小中学校の特コ連絡会：各地区で年3回程度実施。各地区の小中学校の特コが参加して、研修会や情報共有を実施
- ・ 中高連絡会において支援情報の引継ぎ等を実施(各地区3月)
- ・ 「プレ支援シート」「個別の指導計画」等を活用した引継ぎの実施
 - ※ 「プレ支援シート」: 本人の特徴、本人及び保護者の願い、学習の支援、行動の支援、対人関係の支援 等について記載

② 成果と課題

- ▲ 中学校での「プレ支援シート」の作成及び高等学校での活用が徐々に広がりつつある。しかし、3月に実施する中高連絡会での情報共有だけでは不十分であり、中学校の特コとの連携による情報共有等を継続していく仕組みづくり等の必要がある。
- ▲ 特別支援学級に在籍している生徒については、事前の支援情報の引継ぎが進みつつあるが、通常の学級に在籍している生徒の多くは支援情報の引継ぎが十分に行われていない。